



AGORA  
Special  
vol.362

# 欧洲逍遙錄

—写真を撮る 愉しみとともに

旅に出るとさまざまな出会いがある。  
美しい風景や壮大な建築物、料理や名産品……  
忘れないそんな思い出を残すのが写真。  
今回は、写真家山口規子さんが歐州各地で撮った  
心に残る1枚を撮影のコツとあわせてご紹介。  
目の前に広がる風景を新たな視点でみる  
写真を愉しむ旅は、驚きと発見に満ちている。

山口規子=文・撮影  
Text & Photo by YAMAGUCHI Noriko



 ドイツ  
ドレスデン

エルベ川に映り込んだ光を大切に、建築物は全部入れず、ポイントとなる形の建築をなるべく画面の右か左に入る位置に自分が移動して撮影。夜景は手ブレにも注意。

旅

旅に出るということは、日常から離れ、いつもと違う場所で違う文化や風景、人やモノに出会うこと。そこで経験したことは、やがて心の栄養となり、蓄積されていく。デジタルカメラやスマートフォンの普及により、多くの人が写真を撮り、



# 心を捉える 美しい風景 時間の流れが 彩りを生む

りつつあるのも昨今の流

西ドイツ統一から約三一年の月日

フインランドからドイツのドレ  
スデンに移動すると、人の多さに  
圧倒される。ザクセン王国の首都  
として華麗な文化を育み、美しい  
芸術の都として栄えた旧東ドイツ  
のドレスデンは、第二次世界大戦  
中に戦禍を被った歴史もあるが、東

足が草を踏み分ける音と、時々魚が水面を跳ねる音だけ。カメラを向けると湖は一層静まりかえり、鏡のようすに青空を反射していた。静寂に包まれながら、シャッターを切る。誰もいない世界、この美しい景色を独り占め。写真の旅にふさわしいスタートだ。

は、モノの見方が一味変わるもので、新しい発見がある。そんな「写真」と「目線」で、欧洲の旅へご案内しよう。

ヘルシンキ・ヴァンターラ国際空港へ降り立つと、緑豊かな木々の香りに包まれた。フィンランドは国土の七割強が森林、その傍に湖があり縫うように巡らされ、まさに森と湖の国である。ヘルシンキ中央駅から電車で約四時間半、サヴォンリンナへ向かう。車窓には、短い夏を楽しむように木々の葉が重なり合い、花が咲き乱れていた。目的地のペーロスヤルヴィ湖（一二一、一三三）に着いて、早速、撮影場所を探していると、音が少ないことに気づく。聞こえるのは自分の



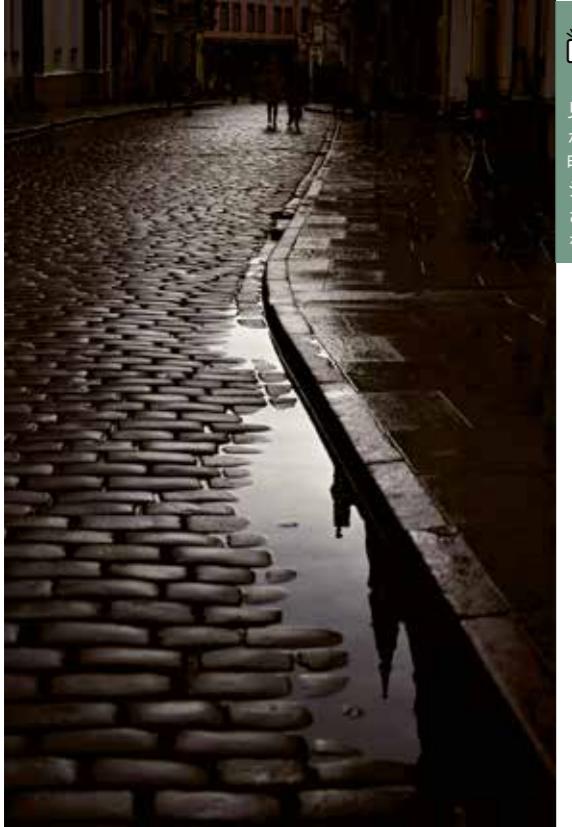
 フィンランド サヴォンリンナ ペーロスヤルヴィ湖

画面のなかに何か1つポイントとなるものを見つける。この場合は左端のベンチ。湖面が鏡のような時は、中心で2つに分けてシンメトリー構図に。また、同地で撮った12.13頁は画面中央に桟橋を入れ、より奥行き感を演出。同じ場所でも撮り方で印象が変わる。



## ドイツ ドレスデン郊外 バスタイ橋

奇岩が立ち並ぶクーアオルト・ラーテンの観光地では、あえて人物を入れて、奇岩の大きさを表現。遠方の山々を入れ込み、橋は画面上で対角線上に置くと奥行き感がある。



### ESTONIA タリン

見たままの明るさで撮る常識から解放されて、暗くしたり明るくしたり、自分のイメージに近づけるのも写真の面白さ。写真現像アプリやソフトを使用して遊んでみよう。



の日もプラハ城と旧市街を結ぶカレル橋には多くの観光客が訪れ、橋の左右に並ぶ三〇体の聖人像を興味深く見学していた。喧騒から逃れるため旧市街の路地に入ると、恋人たちが肩を寄せ合っていた（一六頁右）。欧州ではこのようなシーンに出会うことが多々あるが、絵になると思った時がシャッターチャンス。なるべく邪魔にならないように、人を入れる場合は、できれば撮つてよいか一言聞いてから撮るのがエチケットだ。

エストニアのタリンも中世の面影を色濃く残す街だ。旧市街の小さな通りのほとんどが石畳で、この石たちが街の雰囲気をつくっているといつても過言ではない。雨



### ITALY ローマ

スナップ写真は瞬間芸。瞬間に逃さずに撮るには常に撮れる状態を保つとベスト。ただし、美術館によっては撮影不可なこともあるので事前に確認を。

### ポーランド クラクフ

グラフィティな壁を見たら、どの壁面が一番よくいか見てから撮る。窓の部分だけ切り取ってもよいし、このように通りを入れて街の雰囲気も一緒に。



### HUNGARY ブダペスト

伝統的な建物が対面にあるガラス張りのビルに反射して、新旧融合。自分だけの視点を楽しみながら、青空を入れて高さを表現。この場合は水平垂直を気にせず自由に。



### CZECH REPUBLIC プラハ

はじめに路地の真ん中から撮るか、端から撮るか決める。狭い路地では縦位置で、少し低めのアングルで奥行き感を出し、ポイントとなる被写体を待つ。



## 街角での 出会いは一瞬 心躍る何かを見つけて

風景写真は、美しい場所を見つけることも重要だが、一番大事なのは美しいと感じる「心」かもしれない。

### 旅

を経た今、エルベ川の河畔にパロツク様式の建築物が再建され、「エルベ河畔のフィレンツェ」と称されるほど美しい街に蘇った。

夕食のためレストランに行く途中、アウグストゥス橋を渡ると、美しい夜景（一五頁）が目に飛び込んできた。夕日が落ちて漆黒の闇が来るまでの約三〇分間、これをマジックアワー、またはブルーモーメントと呼ぶ。風景は光の美しい時間帯に撮るのが鉄則である。迷わず予約したレストランに遅れる事。しばし撮影に没頭することにした。

チェコのプラハは、一四世紀にカレル一世がボヘミア王になり、その後カレル四世が神聖ローマ皇帝となつた時代に大きな発展を遂げたヴルタヴァ川両岸に広がる街。ゴシック建築や一六世紀のルネサンス様式の外壁、一七〇一八世紀はバロック建築、一九世紀末（二〇世紀初頭）にはアールヌーボー建築、さらにキュビズム建築など、建築の中世の街並みが残っているため、年間をとおして観光客に人気だ。こ

の楽しみの一つに、街歩きがある。知らない街や村を歩くと、目から刺激はもちろん、匂い、音なども多くのことだろう。まずは自らが何を撮影すればよいのか、悩む人つまり「見つける力」が必要になる。

見る力などを意識することで、何気ない通りでも心躍るものを見つける力なども意識することで、何気ない通りでも心躍るものを見つける。

能動的に動くハンターになること、つまり「見つける力」が必要になる。